

科目名		授業形態	担当教員名	
器質性構音障害Ⅰ（口蓋裂）		講義	井上 直子	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
15 時間（1 単位）		8 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
口蓋裂は先天的にみられる顔面口腔の形成不全で、医学的治療体系は確立され、現在もなお改良が重ねられている疾患である。言語聴覚士はその治療メンバーとして早期からの言語管理を行う。関連する医学的知識の基礎知識と発達の観点からの評価・指導について学習する。講義では、実際の口蓋裂治療に則して、演習を重視し、より臨床的な内容を学ぶ。				
授業の到達目標				
発達の観点からの評価・指導が理解できる。 器質的構音障害の（口蓋裂）の評価ができる。 器質的構音障害（口蓋裂）の治療理論を説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	口蓋裂臨床に必要な基礎知識、口蓋裂治療チームにおける言語臨床家の役割			
2	口蓋裂言語の評価（1）鼻咽腔閉鎖機能			
3	口蓋裂言語の評価（2）構音障害－特異な構音操作の誤り（鼻咽腔閉鎖機能不全と関連の深いタイプ）			
4	口蓋裂言語の評価（3）構音障害－特異な構音操作の誤り（鼻咽腔閉鎖機能不全と関連の少ないタイプ）			
5	口蓋裂言語の治療（1）鼻咽腔閉鎖機能不全			
6	口蓋裂言語の治療（2）構音障害－特異な構音操作の誤り			
7	症例検討－治療計画を立てる			
8	口蓋裂言語臨床の実際			
成績の評価法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	100%	教科書を中心に授業内容全般を出題範囲とした筆記テストを実施し、得点により評価を行う。		
レポート				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
標準言語聴覚障害学 発声発語障害学 第2版（最新版）	藤田郁代 監修		医学書院	
自由記載	その他、必要に応じてプリントを配布する。			
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
口蓋裂の言語臨床 第3版	岡崎恵子・加藤正子ら編		医学書院	
自由記載				
備考				
手鏡、鼻息鏡、ペンライト、舌圧子、教科書				